

模擬授業研究会の斉藤メモ(2019年10月28日)

授業者：〇〇

範囲：労働環境の変化と課題

主な感想・代案

- 資料をいくつも準備して、教材研究していることがよくわかります。ただ、他の人の意見でも出ていましたが、カたい。生徒役の拳手をスルーしてしまった場面も気になりました。資料が小さい。
- 全体として、生徒役に考えさせたい論点はいくつも提示しているのですが、一つ一つの問いのつながりが、30分を見ている中でよくわからなかった。自分たちはどこに向かっているのか、という実感が生徒目線で持ちにくい導入・展開になっていたような気がします。具体的には、導入で、「バリバリ働きたい人が減った」ことと、「一部の会社は労働者を大切にしない」ことの話のつながりが弱い。
- さらに、主発問で「働きやすい環境を作るにはどうしたらよいか？」と聞かれた後に、発問3の「みんなが思う働きやすい環境とは？」とすぐに聞かれる流れがぎこちなく、そのあとに発問4で「非正規雇用の問題点とは？」といく流れも必然性に欠けます。ストーリーがもう少し欲しい。
- 例えば、最初にブラック企業の記事や映像を見せた後に、「こういうことにならないために、教科書にはある対策が書かれています。」と示し、労働組合の話をする。ただ、労働組合の加入者が年々減ってきているらしい。→ブラック企業が騒がれる時代なのに、労働組合の加入率が減ってきているのはなぜか？→実はその背景に非正規労働者の問題がある。例えばこんな流れがありうるかと思います。
- この授業の一番のピークがどこに来るのが分かりにくい。生徒は働いた経験がないので、どうすれば職場を改善できるか、いまいち実感をもって意見を主張できないような気がします。「目標検証シート」のような意見が生徒から出るとは想定しにくい。大人でも難しいと思うのです。
- 例えば、特定の職種で非正規雇用として働くAさんのストーリーを持ってきて、「もしも自分がAさんで、経営者に一つだけ要望を聞いてもらえるとするならば、何を望むか？」と聞く。その理由も聞く。

【コラム】理論と実践の接点

この授業は思考判断表現として作られています。確認になりますが、評価観点は、授業の目的ではなく、単元全体で偏った能力ばかりを育成しないための指標です。

問題は、何をもち「思考している」「判断している」「表現している」といえるのかです。文科省や国研の資料を見ても、こうすれば正解という答えはないように思います。むしろ、個人的にどういう授業を思考だと捉えるのか？という点について皆さん自身の意見を持ってほしい。「評価の視点から授業を作る」という「逆向き設計の考え方」です。この考え方は、アメリカでウィギンズとマクタイによって提案され、日本でも多く紹介されています。重要なのはこの授業で何を評価したいのか？という視点になるわけですが、〇〇君の場合、「労働環境に関する諸問題や対応策を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している」です。この場合、「多面的・多角的」がとりわけ意識しやすい場所かなと思います。多面・多角の話は単にグループワークをしただけでは手に入りません。評価規準に書いた以上は、もう少しこだわってほしかった。

【参考文献】

(1)ウィギンズ&マクタイ『理解をもたらしカリキュラム設計』 (2) 三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか—中学校社会科のカリキュラムと授業づくり』